



映画の益金 資料館にも

「岩手の会」が寄付金

劇映画「いのちの山河」を成功させる岩手の会より映画上映運動の収益金から深澤晟雄資料館に50万円の寄付金が贈られました。

贈呈式は6月24日午前10時30分から深澤晟雄資料館で行われ、岩手の会の事務局である岩手県生協連の加藤善正理事長ほか関係者が来館、深澤晟雄の会太田祖電理事長に寄付金が手渡されました。

映画「いのちの山河」の県内上映会は20市町村を超え、38会場で約130回上映され、県内の鑑賞者数は2万5千人を超えています。

写真：岩手県生協連・遠藤寿美子副理事長（沢内出身）より太田理事長に寄付金が贈られる。



病院の草刈り奉仕

深澤晟雄の会が呼びかけた沢内病院周辺の草刈り奉仕作業が6月18日午前9時から行われました。草刈り機や軽トラを持ち寄った男女18人が、病院敷地内の草刈りや除草作業に2時間ほど汗を流しました。

次回は7月23日午前9時集合です。有志の皆さんをお待ちします。

生命尊重の職業観学ぶ

一関准看高専生

贈呈式のあった24日は一関准看護高等専修学校の生徒28人も資料館を訪問、深澤村長のもとで保健行政の最先端を担った当時の保健師・高橋ミヨさんのお話を聞きました。展示写真を眺めながら、その体験談に引き込まれるように真剣な表情で聞き入っていました。

また、太田祖電理事長のお話もあり、記録映画「自



分たちで生命を守った村」のビデオも鑑賞、生命尊重理念に徹する誇りと職業観を深める学習会となりました。

陸前高田へ救援苗のお礼

西和賀の自然と文化に感激



7月10日午前6時深澤晟雄資料館を出発した一行33人は、取りたての山菜やイワナの食材と調理機器、テントや太鼓など活動に必要な機器材も積み込んで車7台を連ねて陸前高田市へ。



会場は横田中学校の校庭に整備された62世帯ほどが入居中の仮設住宅地。校舎入口の玄関が手ごろな高さで広さのステージに早代わり。タケノコと舞茸の炊き込みご飯にミズの汁物、西ワラビ、岩魚の塩焼きなど、西和賀の自然まるごと持ち込んだの昼食会は大好評でした。テープではなく生演奏の久々の本物民謡に感激。小学生2人を交えた創作太鼓の力強い響きに復興の力ももたらした。などの感激の声が聞かれ、一行は救援苗のお礼ができた思いで帰りました。



写真上〓山菜炊き込みご飯やミズやワラビに行列ができ、夢追い人かじか組合の岩魚の塩焼きも好評でした。写真右〓沢内民謡保存会の民謡と沢内太鼓百年座の演奏。

編集余録

「生命尊重のためにこそ経済開発も社会開発も必要なんだという政治原則を再認識すべきであります」

▼昭和40年の新年、岩手放送ラジオから流れた深澤村長の言葉である。そして氏は1月28日没した。大震災で多くの尊い命を失った今、深澤村長の遺言としてかみしめたい▼経済開発の国策ともいえる福島原発1号機的设计完了は、ラジオで生命尊重を訴えた昭和40年だった。翌41年着工以来45年目、その呼びかけは置き去りにされたまま今日の事故である。氏の無念の涙は「想定外」の言葉では拭えない▼福島県の酪農家が「原発さえなかったら」という遺書を残して命を絶った。「物が命より大事だ」という考え方は極めて危険」と言う深澤村長最後の言葉が甦る▼災害復興計画には国県も市町村も「生命尊重のためにこそ」の理念で、復興への住民力を引き出す政治の活性化を願う。(Y)